

2027年3月期 第1四半期

IR資料

ニプロ株式会社

取締役 専務執行役員 CFO

余語 岳仁

2026年8月10日



- それでは、ニプロ株式会社の第1四半期の決算概要につきまして、IR資料に基づいてご説明させていただきます。

本資料における予測数値等の将来に関する記述は、当社が現時点で入手可能な情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいています。実際の業績等は今後の様々な要因により、本資料の記載事項と大きく異なる可能性があります。

また、本資料に医療機器・医薬品等に関する情報が含まれる場合がありますが、一般の皆さまへの顧客誘引や医学的なアドバイスを意図するものではありません。

報告セグメントの変更について	－ 4
2026年度1Q 業績	－ 5
2026年度1Q 営業利益増減要因	－ 6
通期営業利益予想達成に向けた考え方	－ 7
セグメント売上高・セグメント利益	－ 8
セグメント別売上高	－ 9-11
設備投資	－ 12
減価償却費	－ 13
2026年度 通期予想（連結/セグメント別）	－ 14-18
－ Appendix －	
TOPICS	－ 20
セグメント別・地域別の売上高	－ 21
セグメント×製品群売上高	－ 22
為替レート / 為替感応度 / 製品分類表	－ 23

報告セグメントの変更について（再掲）

事業実態をより分かりやすくお伝えするため、今期よりセグメント区分を変更しております。※1

旧区分		2026年度からの開示区分	
セグメント	取扱製品	セグメント	取扱製品
医療関連セグメント※2	透析関連製品	医療関連セグメント※2	透析関連製品
	ホスピタル関連製品		ホスピタル関連製品
	バスキュラー関連製品		バスキュラー関連製品
	自社ブランド医薬品	医薬関連セグメント	自社ブランド医薬品
	再生医療等製品		CDMO
医薬関連セグメント	CDMO	ファーマパッケージングセグメント	ファーマパッケージング製品
ファーマパッケージングセグメント	ファーマパッケージング製品	全社・調整	本社費用
全社・調整	本社費用		再生医療等製品

※1 本変更は管理・表示区分の見直しによるものであり、連結業績合計に影響はありません。

※2 従前まで医療セグメントに含めていた「メディカル医薬品」は、医療セグメントに引き続き含めております。

- 数字の説明に入る前に、報告セグメントの変更についてご説明いたします。
前年度決算でもお伝えした通り、当年度からセグメント分類を変更しております。左側が旧セグメント、右側が新しいセグメント区分です。
- 主な変更点は2点ございます。
- 1点目は、自社ブランド医薬品の取り扱いです。これまで、販売部門が医療関連セグメント内にあったことから、自社ブランド医薬品は『医療関連セグメント』の中に含まれておりましたが、医薬品全体の業績を認識しやすくするために、当年度より『医薬関連セグメント』へ変更しております。
これにより、医薬関連セグメントは従来の受託製造医薬品に加え、自社ブランド医薬品も含む構成となりました。一方で、医療関連セグメントは、透析関連製品、ホスピタル関連製品、バスキュラー関連製品を中心とした、医療機器事業を主体とするセグメントとなっております。
- 2点目は、再生医療等製品の取り扱いです。本年度中の本承認が期待される段階ではありますが、現時点では事業開発段階であることから、当年度より「全社・調整」に含めて表示しております。
また、前年度までは本社費用に含めていた医療機器・医薬品の研究開発費についても、当年度からはそれぞれのセグメントに配賦しております。

2026年度1Q 業績

単位: 億円	2025年度 1Q	2026年度 1Q	増減額 (増減率)	為替影響を除く 増減額 (増減率)	2026年度 通期予想	四半期別業績推移				
						2025年度				2026年度
						1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
売上高	1,592.2	1,675.4	+83.2 +5.2%	+22.0 +1.4%	7,000.0	1,592.2	1,581.6	1,699.2	1,732.3	1,675.4
売上原価 ※1	1,087.1	1,135.7	+48.5 +4.5%	+22.2 +2.0%	4,650.0	1,087.1	1,078.4	1,183.9	1,159.0	1,135.7
売上総利益 ※2	505.0	539.7	+34.6 +6.9%	▲0.1 ▲0.0%	2,350.0	505.0	503.1	515.3	573.2	539.7
販売管理費	432.9	462.6	+29.7 +6.9%	+12.9 +3.0%	1,950.0	432.9	421.8	401.2	464.5	462.6
営業利益	72.1	77.1	+4.9 +6.9%	▲13.1 ▲18.2%	400.0	72.1	81.2	114.0	108.7	77.1
経常利益 ※3	35.1	66.0	+30.8 +87.8%	-	274.0	35.1	47.1	93.7	21.1	66.0
親会社株主に帰属する 当期純利益	32.7	38.3	+5.6 +17.4%	-	150.0	32.7	26.3	107.7	▲31.7	38.3
	2.1%	2.3%			2.1%	2.1%	1.7%	6.3%	▲1.8%	2.3%

※2 売上利益への
未実現利益の影響額
2025年度1Q ▲9.2億円
2026年度1Q ▲2.3億円

※3 為替差益
2025年度1Q ▲13.0億円
2026年度1Q +17.3億円

※1 再生医療の製造原価の一部を研究開発費へ振替えております（前期も同様）

売上高

医療関連セグメント：海外 -ホスピタル関連製品、透析関連製品、バスキュラー関連製品の伸長
国内 -ホスピタル関連製品および透析関連製品の伸長
医薬関連セグメント：自社ブランド医薬品における注射剤・輸液の販売増加

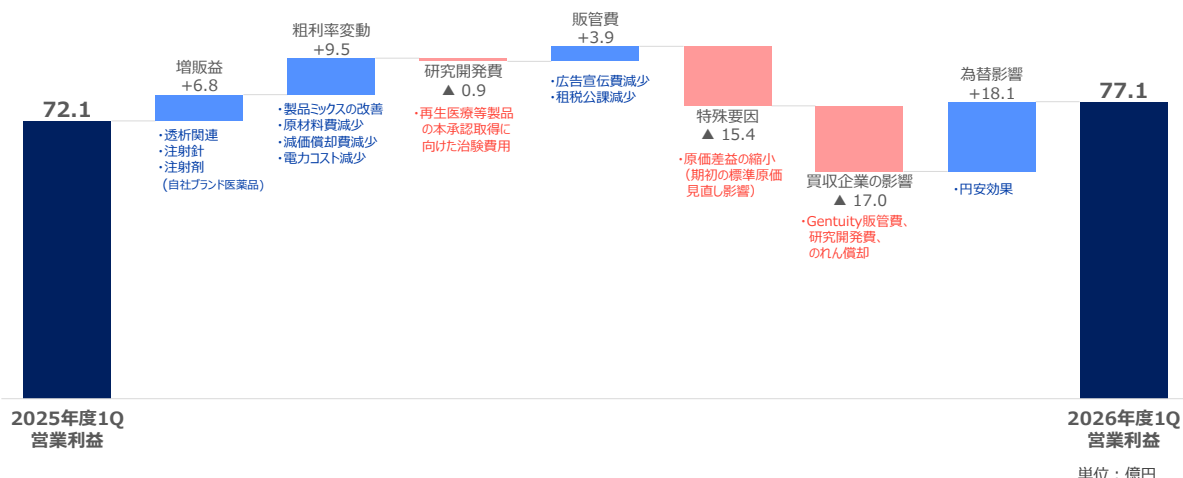
営業利益

Gentuity社連結に伴う費用増加、前年対比での原価差益の縮小（期初の標準原価見直し）の影響があったものの、人件費増加を販管費減少で吸収し、円安効果、収益性改善および販売拡大により増益

5

- それでは、第1四半期の業績についてご説明いたします。
- こちらは第1四半期の業績を前年同期と比較したものです。
売上高は前年対比5.2%の増収となりました。売上総利益率は0.5ポイント改善し、32.2%となっております。
販管費は大きく増加しております。主な要因は前年度末に連結対象とした研究開発子会社Gentuity社の連結影響によるものです。この結果、営業利益は77億円となり、前年同期比約5億円増、6.9%の増益となりました。
- 経常利益につきましては、前年同期の35億円に対し、当期は66億円となり、約9割の増益となりましたが、主な要因は為替差損益です。
前年同期は13億円の為替差損を計上しておりましたが、当期は17億円の為替差益を計上しており、約30億円の改善となっております。
- 最終利益につきましては、前年同期は約40億円の不動産売却益を特別利益として計上していた一方、当期は12億円の補助金収入を特別利益として計上しております。前年度は経常利益が低いものの、大きな特別利益を計上したことにより最終利益が32億、当年度は大きな経常利益に対して、12億円の補助金収入で最終利益が38億円となり、最終的には前年対比17%の増益となりました。

2026年度1Q 営業利益増減要因



- 続きまして、営業利益の前年対比での増減の分析になります。
- 営業利益は前年同期の72億円から当期77億円となり、約5億円の増益となりました。なお、公表しております上期営業利益計画見通し147億円に対しては、第1四半期時点で順調に進捗しており、計画を若干上回る進捗となっております。増減要因ですが、まず売上増加による増益効果約7億円に加え、原価低減や販売ミックス改善などによる利益率向上の影響により、約9億円増加しました。また、研究開発費は対前年比で若干減少しており、こちらはほぼ横ばいご理解いただければと思います。
- 販管費については、約4億円の増益要因となっておりますが、主な要因は広告宣伝費と租税公課の減少によるものです。前年は大阪・関西万博関連の費用として広告宣伝費を計上しておりましたが、当期はその負担がなくなり減少。また、前年は土地売買に伴う控除対象外消費税を租税公課で計上しておりましたが、当期はその影響がなくなっております。
- 一方で、特殊要因として、ニプロファーマにおいて前年に標準原価見直しに伴う原価差益を約20億円計上していましたが、当期は5億円弱にとどまったため、前年と比較すると約15億円のマイナス影響となっております。また、前年度末に連結化したGentuity社に関連する研究開発費およびのれん償却費の負担が約17億円発生したものの、為替影響と営業努力によって吸収し、前年対比5億円の増益となりました。

通期営業利益予想達成に向けた考え方

セグメント		内容	時期	通期予想
医療関連	米州	ダイアライザ「ELISIO™-HX」の収益貢献	下期	織り込み済
	日本	ダイアライザの販売増および収益性向上		
医薬関連	自社ブランド	フォシーガ®AGの販売開始 (ダバグリフロジン錠「ニプロ」)		
		GE製品(2品目)販売開始		
	CDMO	値上げ影響		
コスト構造改善		赤字品削減、販管費最適化、生産効率向上	通期	
医療関連	日本	価格是正	下期	未織り込み

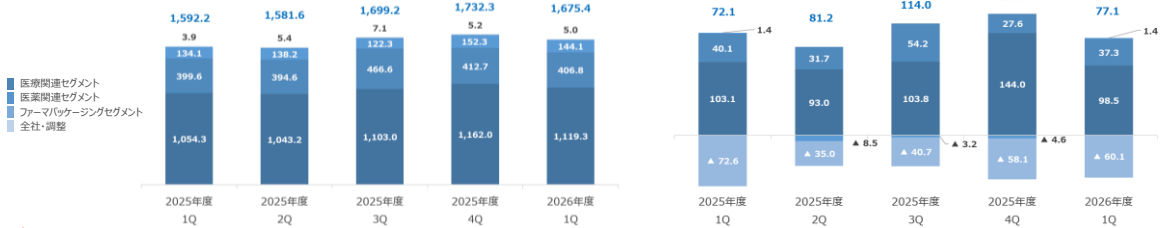
7

- それでは、通期営業利益予想達成に向けた取り組みについてご説明いたします。
- 2026年度の通期営業利益計画400億円に対し、第1四半期の実績は77億円となっております。単純に4倍しただけでは計画に届かず、下期でさらに100億程度の利益を積み上げる必要があります。その達成に向けた主な取り組みがこちらになります。
- まず、医療関連セグメントです。当社が強みとしております高機能ダイアライザの「ELISIO™-HX」について、米国FDAの510(k)クリアランスを取得したことを先週発表いたしました。今後、米国市場での売上拡大と利益貢献を見込んでおります。また日本では、ダイアライザの償還価格が引き上げられており、この効果は6月以降に現れる見込みでございます。今後は販売増と収益性改善の両面で業績への貢献を期待しております。
- 続いて医薬関連セグメントです。自社ブランド製品では、新たに契約した「フォシーガ®錠」のAGを2026年9月頃より販売開始する予定であり、下期以降の売上・利益への貢献を見込んでおります。また、GE製品も比較的大きな売上が期待できる2品目の販売開始を予定しております。
CDMO事業では、インフレに対応した価格改定を進めております。第1四半期では価格改定の進捗がやや遅れておりますが、下期以降の利益改善要因になると考えております。
- さらに、コスト構造改善にも継続して取り組んでおります。「赤字品目の削減」や「販管費の適正化」、「生産効率の向上」を、新しく設立したバリューエンジニアリング部門を中心に進めており、今後順次効果が現れてくるものと見込んでおります。
- なお、ここまでご説明した施策については、業績予想の中にある程度織り込んでおり、今年度の計画は下期偏重の構成となっております。これに加え、現時点では業績予想に織り込んでおりませんが、日本国内においてはインフレに対応した価格是正も進めており、下期以降の収益改善要因になるものと考えております。

セグメント売上高・セグメント利益

医療関連セグメントは、Gentuity社の連結影響、医薬関連セグメントは、前年対比で原価差益が縮小したことにより減益。

	売上高					営業利益			
	2025年度 1Q	2026年度 1Q	増減率	為替影響を 除く増減率	2026年度 通期予想 (進捗率)	2025年度 1Q	2026年度 1Q	増減率	2026年度 通期予想 (利益率)
単位：億円									
連結合計	1,592.2	1,675.4	+5.2%	+1.4%	7,000.0 23.9%	72.1	77.1	+6.9%	400.0 5.7%
医療関連セグメント	1,054.3	1,119.3	+6.2%	+1.4%	4,691.0 23.9%	103.1	98.5	▲4.5%	445.0 9.5%
医薬関連セグメント	399.6	406.8	+1.8%	+1.6%	1,697.0 24.0%	40.1	37.3	▲6.9%	146.0 8.6%
ファーマパッケージングセグメント	134.1	144.1	+7.5%	+0.1%	582.0 24.8%	1.4	1.4	▲4.5%	16.0 2.7%
全社・調整	3.9	5.0	+26.9%	-	30.0 16.9%	▲ 72.6	▲ 60.1	-	▲ 207.0



- ここからは、各セグメントの業績についてご説明いたします。
- まず左側の表は、各セグメントの売上高の増減を示しております。
一方で利益面をご覧くださいと、医療関連、医薬関連、ファーマパッケージの各セグメントが減益となっており、少し違和感を持たれるかもしれませんが、これには特殊要因が含まれております。
- 医療関連セグメントでは、先ほどご説明したとおり、新たに連結した子会社の影響として約17億円の費用が計上されております。
- また医薬関連セグメントでは、標準原価の見直しに伴う原価差益が縮小したことによる、差額が約15億円ございます。
- これらの影響は全社・調整セグメントで吸収しており、連結合計としては増益となっております。主な要因は、在庫調整に伴う未実現利益の控除額の減少に加え、先ほどご説明した広告宣伝費および租税公課の減少です。その結果、全社ベースでは利益改善が進み、前年対比で増益を達成しております。

医療関連セグメント

	2025年度 1Q 単位：億円	2026年度 1Q	増減率	為替影響を 除く増減率	主な増減要因（対前年同期比）
売上高合計	1,054.4	1,119.3	+6.2%	+1.4%	- 日本はダイアライザの販売が回復したことなどにより、好調に推移 - 海外はホスピタル関連製品や透析液などの入札獲得、バスキュラー関連製品の拡販活動などにより堅調に推移、円安効果も寄与
日本	343.8	372.9	+8.5%	+8.4%	- ダイアライザは、ファインフラックス（ATA膜）の販売回復、マキシフラックス（PES膜）の拡販活動などにより販売が好調に推移 - 注射針類は中東情勢に伴う買い込み需要により販売が増加 - 注射剤・輸液（生食注シリンジ）の価格転嫁
米州	298.4	295.4	▲1.0%	▲4.1%	- ダイアライザが、中南米において入札獲得により増加。北米においてはELISIO™-HXへの切り替えを控えた出荷減少 - その他透析関連が、中南米において患者数・透析治療需要増により透析センターの売上高が増加。メキシコでの入札獲得により透析液が増加
欧州	218.3	237.0	+8.6%	▲5.4%	- 円安効果 - ダイアライザが低価格競合他社の影響を受け減少 - 注射針類（採血針関連製品）が、OEM先の在庫調整に伴う需要減
アジア	103.5	115.2	+11.4%	+8.0%	- 注射針類（採血針関連製品）が、入札獲得や生産能力増強に伴い増加 - バスキュラー関連製品が拡販活動により増加
中国	90.2	98.6	+9.2%	+0.1%	- ダイアライザが継続的な集中購買の実施、および価格上昇の影響で増加 - その他透析関連が透析患者数増加による透析センターでの売上が増加 - バスキュラー関連製品が集中購買の開始を見据えた買い控えの影響で減少 - 透析機器が国産優遇施策の影響があり減少
セグメント利益	103.1	98.5	▲4.5%	-	増販益に加え、原材料費の減少により粗利は改善も、人件費の増加やGentuity社の連結に伴う研究開発費の増加により、利益は前年対比で減益

※ 中東地域の売上高に関して、アジア地域に含めて開示しておりましたが、2026年度より欧州地域に含めております。それに伴い、2025年度1Qの数値も修正しております。

※ 従前はOEMの売上高を開示しておりましたが、2026年度より、米州・欧州にそれぞれ含めて開示しております。

- それでは、医療関連セグメントの内訳についてご説明いたします。
- 医療関連セグメントは地域別に区分しております。
- 日本、欧州、アジア、中国では概ね好調な売上成長となっております。一方で、米州は前年並みの水準となっております。米州につきましては、先日公表いたしました高機能ダイアライザ「ELISIO™-HX」の510(k)クリアランス取得に伴い、販売先である米国大手販売代理店およびDaVitaにおいて、既存品から新製品への切り替え準備が進められておりました。承認取得前は在庫を絞る動きがあったことから、第1四半期の売上はほぼ横ばいとなっております。今回承認を取得したことで、今後は増産分の出荷を進めてまいりますので、米州向けの出荷は下期以降大きく伸びていくものと見込んでおります。
- 日本では、ダイアライザの販売が引き続き好調に推移しております。また、注射剤・輸液などの価格改定効果もあり、売上は堅調に推移しております。加えて、注射針は中東情勢の影響もあり、一部のお取引先で在庫を厚めに確保する動きが見られたことも販売増に寄与しております。
- アジアについては、前年は売上成長が鈍化しておりましたが、バスキュラー製品の拡販に加え、シングルユース製品の在庫調整が進んだことから、市場環境が改善し、再び成長軌道に戻りつつあります。

医薬関連セグメント

	2025年度 1Q	2026年度 1Q	増減率	為替影響を 除く増減率	主な増減要因（対前年同期比）
単位：億円					
売上高合計	399.6	406.8	+1.8%	+1.6%	● 自社ブランド医薬品は、経口剤が薬価改定の影響を受け減少も、バイオシミラー（BS）製品や抗がん剤、抗菌薬を中心とした注射剤・輸液が伸長 ● CDMOは、GE品が前年並みの一方、先発品・長期収載品の受注減少や取引終了予定品目の影響等により減少
自社ブランド 医薬品 ※1	228.8	245.1	+7.1%	+6.8%	● 注射剤・輸液は、BS製品、抗がん剤、抗菌薬が好調に推移 ● 外用剤は前年度に出荷制限を実施していた吸入粉末剤の販売が復調 ● 経口剤は引き続き薬価下落
CDMO	170.8	161.6	▲5.4%	-	● GE品は、注射剤の受注時期ズレにより減少したものの、抗がん剤の販売好調、経口剤の受注も増加 ● 先発品・長期収載品は、注射剤の受注減、受注時期ズレにより減少 ※ 各製品の受注時期の変動によるマイナス影響は時期差であり、通期影響は限定的
GE品	80.5	81.4	+1.1%	-	● 経口剤における受注増 ● 注射剤は、抗がん剤は好調であったものの、一部受託製品の受注時期ズレの影響が大きく、減少
先発品・ 長期収載品	83.8	68.8	▲17.9%	-	● 注射剤の受注減、受注時期ズレ等により大きく減少 ● 経口剤は受注減によりわずかに減少
その他	6.4	11.3	+77.0%	-	● 商用生産前の試験製造収入の増加
セグメント利益	40.1	37.3	▲6.9%	-	● 増販益や増産に伴う操業度改善があったものの、原価差益の縮小（期初の標準原価見直し影響）があり前年対比で減益

※1 自社ブランド医薬品にJMIファーマを含んでおります

- 続いて、医薬関連セグメントについてご説明いたします。
- まず、自社ブランド製品はバイオシミラー、抗がん剤、抗菌薬等の注射剤を中心に販売が好調に推移しております。また、外用剤については売上規模こそ大きくありませんが、前年に出荷制限を実施していた製品の販売が回復しており、業績に寄与しております。
- 一方、CDMO事業の受託製造売上については、前年同期比で減収となりました。本来、成長を牽引する先発品や長期収載品において、一部製品で受注時期のズレが発生したことが主な要因です。ただし、これは需要そのものが減少したというものではなく、受注のタイミングによる影響が大きいため、通期ではその分を取り戻せるものと見込んでおります。



ファーマパッケージングセグメント

	2025年度 1Q	2026年度 1Q	増減率	為替影響を 除く増減率	主な増減要因（対前年同期比）
売上高合計	134.1	144.1	+7.5%	+0.1%	- 日本での注射剤・輸液の出荷増や、米国でのバイオ医薬品向けガラス管やバイアルの需要回復が寄与 - 欧州ではシリンジガラスやバイアルガラスの販売が減少したものの、アンプルガラスやカートリッジの販売増加に加え、円安効果が寄与
日本	38.7	41.6	+7.6%	+7.5%	- その他製品（注射剤・輸液、キット製剤、歯科用麻酔剤）が競合品の供給不足継続に伴い出荷増 - ゴム栓（その他）では、価格改定を実施し販売単価が上昇
欧州	61.6	62.5	+1.5%	▲12.0%	- 円安効果 - アンプルガラスの販売拡大やカートリッジ等の販売増加 - バイアルガラスの販売減少 - シリンジガラスが競合他社との価格競争の影響により販売減少
アメリカ	25.6	30.5	+19.3%	+15.3%	- バイアルガラスが市場回復に伴う販売数量の増加に加え、欧州子会社からの顧客移管による売上増加が寄与 - ガラス管はバイオ医薬品向け高付加価値製品の需要が増加
アジア※1	8.1	9.3	+15.1%	+9.7%	- アジア地域ではガラス管やバイアルガラスの販売が微減 - 中国ではガラス管やアンプルガラス、バイアルガラスの販売が増加
セグメント利益	1.4	1.4	-	-	労務費削減も、原材料価格上昇等により前年並み

※1 従前は「中国」「インド」を開示しておりましたが、2026年度より、「アジア」に統合して開示しております。

- 続いて、ファーマパッケージングセグメントの業績についてです。
- 売上高は144億円となり、前年対比7.5%の増収となりました。
- 地域別では、日本、米州、アジアを中心に販売が伸長しております。特に日本では、歯科向け麻酔剤やキット製剤向けの需要増加が売上拡大に寄与しました。また米州では、前年まで課題となっていた過剰な市中在庫が解消してきたことで、バイアル製品を中心に販売が回復しております。一方、欧州では市中在庫調整の影響が継続しており、販売回復にはやや時間を要しておりますが、アンプルおよびバイアル製品の販売は堅調に推移しております。
- その結果、全地域で前年を上回る売上高となりましたが、利益面では労務費や原材料価格の上昇影響を受け、セグメント利益は前年並みとなりました。

設備投資

医療関連を中心に、生産能力増強および供給体制強化。

	2025年度 1Q	2026年度 1Q	増減額
単位：億円			
設備投資 合計	112.1	139.2	+27.1
医療関連	65.9	89.6	+23.6
医薬関連	25.5	27.3	+1.7
ファーマパッケージング	13.2	17.7	+4.5
全社・調整	7.3	4.5	▲2.8

※ 設備投資額は有形固定資産のみの投資額を記載しております。

医療関連セグメント

〈2026年度1Qの主な投資内容〉

- ✓ベトナム工場のダイアライザ増産
- ✓アメリカ新工場の建設
- ✓スペインの透析液工場移転の土地取得

医薬関連セグメント

〈2026年度1Qの主な投資内容〉

- ✓近江工場の一般注射剤棟（バイアル棟）

ファーマパッケージングセグメント

〈2026年度1Qの主な投資内容〉

- ✓発注済のドイツ工場の高付加価値シリンジ製造ライン

- 続いて、設備投資についてです。
- 2026年度第1四半期の設備投資額は139億円となり、前年対比で27億円増加いたしました。
- 医療関連セグメントでは、ベトナム工場のダイアライザ増産投資、アメリカでの新工場建設、スペイン工場の移転による土地取得が主な投資内容です。
- 医薬関連セグメントでは近江工場一般注射剤棟（バイアル棟）の建設に係る継続的な投資となっております。
- ファーマパッケージングセグメントでは新規投資はなく、発注済みのドイツ工場の高付加価値シリンジ製造ラインへの投資の支払いが発生しております。

2026年度より国内の会社についても定額法での減価償却方法を採用したこともあり、前年対比では4.0億円減少。

	2025年度 1Q	2026年度 1Q	増減額
単位：億円			
減価償却費 合計	149.4	145.3	▲4.0
医療関連	82.0	80.3	▲1.7
医薬関連	36.7	35.6	▲1.1
ファーマパッケージング	17.0	16.8	▲0.2
全社・調整	13.5	12.6	▲0.9

- 続いて、減価償却費についてです。
- 2026年度より国内の一部会社において減価償却方法を変更したことに伴い、医療関連、医薬関連、ファーマパッケージングの各セグメントで減少し、連結合計では前年対比4億円減少の145億円となりました。

通期予想 - 連結（再掲）

単位：億円	2025年度 実績	2026年度 通期予想※	増減額 (増減率)
売上高	6,605.3	7,000.0	+394.7 +6.0%
売上原価	4,522.5	4,650.0	+127.5 +2.8%
売上総利益	2,082.8	2,350.0	+267.2
	31.5%	33.6%	+12.8%
販売管理費	1,706.5	1,950.0	+243.5
	25.8%	27.9%	+14.3%
営業利益	376.2	400.0	+23.8
	5.7%	5.7%	+6.3%
経常利益	197.2	274.0	+76.8
	3.0%	3.9%	+38.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	135.0	150.0	+15.0
	2.0%	2.1%	+11.1%

＜期中平均レート＞

	2025年度 期中平均レート	2026年度 通期予想レート	増減率
ドル	149.7	143.0	▲4.5%
ユーロ	169.5	169.0	▲0.3%
元	20.8	20.0	▲3.8%

※ 2026年度予想は、現時点で入手可能な情報に基づき算定しており、中東情勢の影響については合理的に算出することが困難なため、2026年度予想には織り込んでおりません。

- 続いて、通期業績予想について改めてご説明いたします。
- 2026年度の売上高は7,000億円を見込んでおり、前年度比394億円増、6.0%増収を計画しております。第1四半期時点では、概ね順調に進捗しております。
- 営業利益は400億円を計画しております。
内訳は上期150億円、下期250億円としており、先にご説明した（7スライド目）下期の積み上げ要素により、通期の業績予想達成に向け進めております。

通期予想 – セグメント別（セグメント変更後）

■ 医療関連セグメント売上高・利益

単位：億円	2023年度 実績	2024年度 実績	2025年度 実績	2026年度 通期予想
売上高合計	3,663.8	4,180.5	4,362.7	4,691.0
日本	1,346.9	1,405.9	1,463.8	1,515.0
米州	914.1	1,150.5	1,212.8	1,227.0
欧州	705.9	836.0	907.9	969.0
アジア	381.1	448.1	415.2	583.0
中国	315.8	340.0	363.0	397.0
セグメント利益	316.8	365.9	444.1	445.0

15

- 通期予想の各セグメントについて、ご説明いたします。
- 医療関連セグメントでは売上高は4,691億円、セグメント利益は445億円を見込んでおり、ほぼ前年並みの水準となる見込みです。
- 2025年度に連結対象となったGentuity社に関連する費用が年間で約70億円含まれておりますが、Gentuity社関連費用を吸収する利益成長を見込んでおり、事業そのものは堅調に推移する計画です。

通期予想 – セグメント別（セグメント変更後）

■ 医薬関連セグメント売上高・利益

単位：億円		2023年度 実績	2024年度 実績	2025年度 実績	2026年度 通期予想
売上高合計		1,606.9	1,653.6	1,673.8	1,697.0
自社ブランド医薬品		926.8	935.6	947.5	990.0
CDMO	GE品	381.4	335.5	320.2	310.0
	先発品・ 長期収載品	251.3	334.7	356.3	359.0
	その他	47.5	47.7	49.8	38.0
セグメント利益		88.8	149.3	153.7	146.0

16

- 続いて、医薬関連セグメントの見通しです。
- 売上高は1,697億円、セグメント利益は146億円と前年対比で若干の減益となりますが、概ね前年並みを見込んでおります。
- 売上高については、自社ブランド医薬品およびCDMO事業が引き続き堅調に推移する見込みであり、増収を計画しております。
- セグメント利益については、近江工場一般注射剤棟（バイアル棟）の稼働に伴う費用の増加等により、前年並みの水準となる見通しです。

通期予想 – セグメント別（セグメント変更後）

■ ファーマパッケージングセグメント売上高、利益

単位：億円	2023年度 実績	2024年度 実績	2025年度 実績	2026年度 通期予想
売上高合計	580.5	592.8	547.1	582.0
日本	131.4	143.2	152.8	149.0
欧州	251.8	280.9	258.8	281.0
アメリカ	141.3	129.7	102.0	119.0
アジア	56.0	39.0	33.4	33.0
セグメント利益	21.1	0.4	▲15.0	16.0

17

- 続いて、ファーマパッケージングセグメントの見通しです。
- 売上高は582億円、セグメント利益は16億円を見込んでおります。
- 利益面では、欧米での市況改善、日本国内が好調に推移していることに加え、これまで進めてきた構造改革・収益改善施策の効果を見込んでおります。その結果、2025年度の15億円の損失から、2026年度は16億円の利益となる見込みであり、約30億円の利益改善を計画しております。

通期予想 – セグメント別（セグメント変更後）

■ 設備投資額/減価償却費

単位：億円	設備投資額 ※1				減価償却費			
	2023年度 実績	2024年度 実績	2025年度 実績	2026年度 通期予想	2023年度 実績	2024年度 実績	2025年度 実績	2026年度 通期予想
合計	953.4	740.5	640.7	490.2	560.3	625.0	616.7	581.5
医療関連	463.5	386.0	335.2	244.0	271.4	325.3	341.7	318.0
医薬関連 ※2	306.4	170.6	221.2	151.1	159.4	161.0	154.6	141.0
ファーマパッケージング	166.3	128.7	68.1	57.2	69.1	81.0	64.2	69.5
全社・調整	17.0	55.0	16.0	37.9	60.2	57.6	56.1	53.0

※1 設備投資額は有形固定資産のみの投資額を記載

※2 ニプロファーマ近江工場に係る補助金は織り込まず

■ 研究開発費

単位：億円	2023年度 実績	2024年度 実績	2025年度 実績	2026年度 通期予想
研究開発費	257.3	278.6	268.1	284.0
医療関連	126.4	151.4	150.9	157.0
医薬関連	84.3	80.7	74.7	82.0
ファーマパッケージング	5.2	5.5	4.4	10.0
全社・調整	41.2	40.8	37.9	35.0

- 続いて、設備投資、減価償却費および研究開発費の見通しです。
- まず設備投資については、2026年度は490億円を計画しております。近年は国内外の生産体制強化のために、高水準の設備投資を継続してまいりましたが、2026年度は設備投資額を低減できると見込んでおります。
なお、この計画にはニプロファーマ近江工場一般注射剤棟（バイアル棟）の建設に係る補助金約200億円が含まれておりませんが、補助金影響を考慮した実質的な投資額は300億円程度となる見込みです。
- 次に減価償却費については、2026年度は見通しを581億円としております。近年実施してきた大型投資に伴う償却負担は継続するものの、償却方法の変更などの影響で、前年度比では減少する見込みです。
- 研究開発費については284億円を計画しており、2025年度に買収したGentuity社の研究開発費が加わることなどから、前年度比で増加を見込んでおります。

Appendix

中長期成長に向けた戦略投資を推進

2026年4月 ニプロファーマ株式会社 近江工場 一般注射剤棟(バイアル棟)の竣工

- ・ 2026年11月から商用生産に向けた試験生産開始予定。同棟は、「平時」は通常の注射剤、感染症拡大などの「有事」はワクチンを製造する“デュアルユース”が可能。
- ・ 経済産業省のワクチン生産体制強化のためのバイオ医薬品製造拠点等整備事業において、第一次公募の製剤部門として唯一採択された案件であり、2026年度内に建屋・製造設備に対し補助金受領予定（圧縮記帳処理のためP/ラインパクトは軽微）。
- ・ 中外製薬との戦略的協業を通じ、グローバルGMPに対応した製造体制の構築を推進。グローバル市場への製品供給が可能な高水準の医薬品製造拠点として機能強化を図る。



2026年6月 当社として4成分目のオーソライズド・ジェネリック(AG)が追補収載

- ・ 先発医薬品「フォシーガ®錠5mg／10mg」のAGとしてダパグリフロジン錠5mg／10mg「ニプロ」が追補収載
- ・ AG制度見直しに伴い、当該製品が現行制度下で最後の追補収載となる
- ・ 2026年9月頃に販売開始予定。2型糖尿病治療剤のラインナップを拡充し、糖尿病関連領域における事業基盤と収益基盤の強化を図る。
(「1型糖尿病」「慢性心不全」「慢性腎臓病」の効能・効果は、ニプロ品にはなし)



20

- ここからは参考資料として、当期の主なトピックスをご紹介します。
- まず一つ目は、ニプロファーマ近江工場の一般注射剤棟（バイアル棟）の竣工です。現在は稼働していませんが、2026年11月の商用生産開始に向けた準備を進めております。
本工場は中外製薬との戦略的協業のもと整備を進めているFDA対応工場であり、今後の展開に期待される工場です。
- 続いて、オーソライズド・ジェネリック（AG）の追補収載についてです。
2026年6月、「フォシーガ®錠」のAGである「ダパグリフロジン錠5mg／10mg『ニプロ』」が追補収載されました。2026年9月頃より販売開始を予定しております。
現在の適応症に加え、今後予定されている糖尿病関連領域での適応拡大によって市場の拡大が期待されており、当社としても将来的な需要増加を見込んでおります。

セグメント別・地域別の売上高 ※仕向地ベース

セグメント						
地域		医療関連 事業	医薬関連 事業	ファーマパッケージング 事業	その他 事業	合計
単位：億円						
日本	2026年度1Q	373.7	381.3	41.8	4.9	801.8
	2025年度1Q	345.9	378.5	38.8	3.7	767.1
海外計	2026年度1Q	745.5	25.5	102.3	0.1	873.6
	2025年度1Q	708.4	21.0	95.3	0.2	825.0
米州	2026年度1Q	299.5	-	26.6	0.0	326.2
	2025年度1Q	305.9	-	25.3	0.0	331.3
欧州	2026年度1Q	192.9	0.8	64.8	0.0	258.6
	2025年度1Q	163.0	1.7	61.5	-	226.3
中国	2026年度1Q	100.0	0.1	6.9	0.0	107.1
	2025年度1Q	91.0	0.1	4.7	0.0	95.9
アジア	2026年度1Q	153.0	24.5	4.0	0.0	181.6
	2025年度1Q	148.2	19.2	3.7	0.2	171.4
合計	2026年度1Q	1,119.3	406.8	144.1	5.0	1,675.4
	2025年度1Q	1,054.3	399.6	134.1	3.9	1,592.2

- 以降は参考資料としてご覧ください。以上、ご清聴ありがとうございました。

セグメント×製品群売上高 ※仕向地ベース

		全社				海外				日本			
		2025年度 1Q	2026年度 1Q	増減額	増減率	2025年度 1Q	2026年度 1Q	増減額	増減率	2025年度 1Q	2026年度 1Q	増減額	増減率
単位：億円													
医療関連セグメント	タイプライザ	282.5	288.6	+6.0	+2.1%	229.3	225.2	▲4.1	▲1.8%	53.1	63.3	+10.1	+19.1%
	透析機器	72.0	72.6	+0.5	+0.8%	60.1	60.4	+0.2	+0.5%	11.9	12.2	+0.2	+2.4%
	その他透析関連	217.5	244.2	+26.6	+12.3%	178.0	203.5	+25.5	+14.3%	39.4	40.6	+1.1	+3.0%
	透析関連製品計	572.1	605.5	+33.3	+5.8%	467.5	489.2	+21.7	+4.6%	104.6	116.2	+11.6	+11.1%
	注射針類	152.5	169.0	+16.5	+10.8%	107.9	115.6	+7.7	+7.1%	44.5	53.3	+8.8	+19.8%
	輸液関連製品	54.7	58.1	+3.3	+6.2%	24.9	25.7	+0.8	+3.4%	29.8	32.3	+2.5	+8.5%
	糖尿病関連製品	32.2	30.4	▲1.7	▲5.5%	28.4	27.4	▲0.9	▲3.3%	3.8	2.9	▲0.8	▲21.8%
	その他ホスピタル関連製品	155.2	161.5	+6.3	+4.1%	55.2	55.7	+0.4	+0.8%	99.9	105.8	+5.9	+5.9%
	ホスピタル関連製品計	394.8	419.2	+24.4	+6.2%	216.6	224.7	+8.0	+3.7%	178.1	194.5	+16.4	+9.2%
	バスキュラー関連製品	87.3	94.5	+7.2	+8.2%	24.1	31.5	+7.3	+30.4%	63.1	63.0	▲0.1	▲0.2%
	医療関連セグメント計	1,054.3	1,119.3	+64.9	+6.2%	708.4	745.5	+37.1	+5.2%	345.9	373.8	+27.8	+8.1%
医療関連セグメント	経口剤	135.5	130.6	▲4.9	▲3.7%	18.5	22.5	+4.0	+21.8%	117.0	108.0	▲9.0	▲7.7%
	注射剤・輸液	70.9	90.2	+19.2	+27.2%	0.1	0.2	+0.0	+31.8%	70.7	89.9	+19.2	+27.2%
	その他	20.0	22.1	+2.0	+10.2%	0.1	0.0	+0.0	▲42.7%	19.8	22.0	+2.1	+10.7%
	自社ブランド医薬品	226.5	242.9	+16.3	+7.2%	18.8	22.9	+4.0	+21.4%	207.6	220.0	+12.3	+5.9%
	経口剤	63.2	69.9	+6.7	+10.6%	0.2	0.1	+0.0	▲41.6%	63.0	69.8	+6.8	+10.8%
	注射剤・輸液	97.6	77.0	▲20.6	▲21.1%	1.4	0.9	▲0.4	▲34.1%	96.2	76.0	▲20.1	▲20.9%
	その他	12.2	16.9	+4.6	+38.2%	0.5	1.5	+0.9	+169.8%	11.6	15.3	+3.7	+31.8%
	他社ブランド医薬品	173.1	163.8	▲9.2	▲5.3%	2.1	2.5	+0.3	+17.9%	170.9	161.3	▲9.6	▲5.6%
医療関連セグメント計	医療関連セグメント計	399.6	406.8	+7.1	+1.8%	21.0	25.5	+4.4	+21.0%	378.5	381.3	+2.7	+0.7%
ファーマパッケージング セグメント	ガラス製関連	33.1	33.7	+0.6	+1.9%	26.2	26.5	+0.3	+1.3%	6.8	7.1	+0.2	+4.2%
	ガラス フラブル	18.4	22.6	+4.1	+22.4%	18.4	22.5	+4.1	+22.5%	0.0	0.0	+0.0	▲15.2%
	ガラス バイアル	31.1	32.2	+1.0	+3.5%	24.6	26.1	+1.5	+6.2%	6.5	6.0	▲0.4	▲7.1%
	ガラス シリンジ	19.5	14.7	▲4.7	▲24.4%	19.4	14.7	▲4.7	▲24.5%	0.0	0.0	+0.0	+22.0%
	その他	31.8	40.8	+8.9	+28.1%	6.5	12.3	+5.8	+89.1%	25.3	28.5	+3.1	+12.4%
	部 門 計	134.1	144.1	+10.0	+7.5%	95.3	102.3	+7.0	+7.4%	38.8	41.8	+2.9	+7.7%
全社・調整	生産機械販売・不動産賃貸	2.3	2.4	+0.0	+3.6%	0.0	0.0	+0.0	+121.0%	2.3	2.4	+0.0	+3.1%
	再生医療等製品	1.2	2.2	+0.9	+74.8%	-	-	-	-	1.2	2.2	+0.9	+74.8%
	全社・調整計	3.9	5.0	+1.0	+26.9%	0.2	0.1	+0.0	▲34.7%	3.7	4.9	+1.1	+31.0%
連 結 合 計		1,592.2	1,675.4	+83.2	+5.2%	825.0	873.5	+48.4	+5.9%	767.1	801.8	+34.7	+4.5%



為替レート / 為替感応度 / 製品分類表



<期中平均レート>

<期末日レート>

<為替感応度（円安1円当たりの年間影響額）>

	FY2025				FY2026						FY2025	FY2026	単位：億円	売上高	営業利益
	1月-3月	1月-6月	1月-9月	1月-12月	1月-3月	1月-6月	1月-9月	1月-12月	計画		6月末	6月末			
¥/USD	151.21	147.48	147.78	149.78	156.45	-	-	-	143.00	¥/USD	144.81	162.39	¥/USD	10.0	▲ 0.2
¥/EUR	159.35	162.24	165.57	169.53	183.53	-	-	-	169.00	¥/EUR	169.66	185.35	¥/EUR	6.4	1.9
¥/CNY	20.75	20.34	20.48	20.87	22.64	-	-	-	20.00	¥/CNY	20.19	23.87	¥/CNY	18.6	7.6

<製品分類表>

区分		製品群	主な製品
医療関連セグメント	透析関連製品	ダイアライザ	ダイアライザ（人工腎臓透析器）、HDFフィルター
		透析装置	透析システム、メンテナンス、透析機器部品
		その他透析関連	血液回路、AVFニードル（翼付留置針）、粉末透析剤、透析液 他
	ホスピタル関連製品	注射針類	PSVニードル（翼付留置針）、セーフタッチニードル 他
		輸液関連製品	輸液セット、IVカスラ 他
		糖尿病関連製品	インスリン針、血糖測定器（海外向け）、ランセット
		その他ホスピタル関連製品	手袋、補助人工心臓、人工肺、ネオチューブ、プレフィルドシリンジ製剤（生理食塩液、ヘパリン等） 他
	バスキュラー関連製品	バスキュラー関連製品	循環器治療用カテーテルセット、血栓吸引カテーテル 他
医薬関連セグメント	自社ブランド医薬品/他社ブランド医薬品	経口剤	経口剤
		注射剤・輸液	シリンジキット、バイアル製剤、PLW 他
		その他	外用剤・貼付剤、診断薬 他
ファーマパッケージングセグメント	ファーマパッケージング製品	ガラス管関連	医療用ガラス管、非医療用ガラス管
		ガラス アンフル	アンフル（シングルチップ、ダブルチップ）
		ガラス バイアル	バイアル（フロアバック、スクルー等）
		ガラス シリンジ	シリンジ（ルアーロック、ルアースリップ、滅菌済等）
		その他	ゴム栓、栓体、プラスチック品、カードラジ 他
全社・調整		再生医療等製品	
		生産機械販売・不動産賃貸	



すべての
いのちに、
よろこびを。